



初庵文集

三

45
1406
3



15
1406
3

癸丑日記

自心室
九月

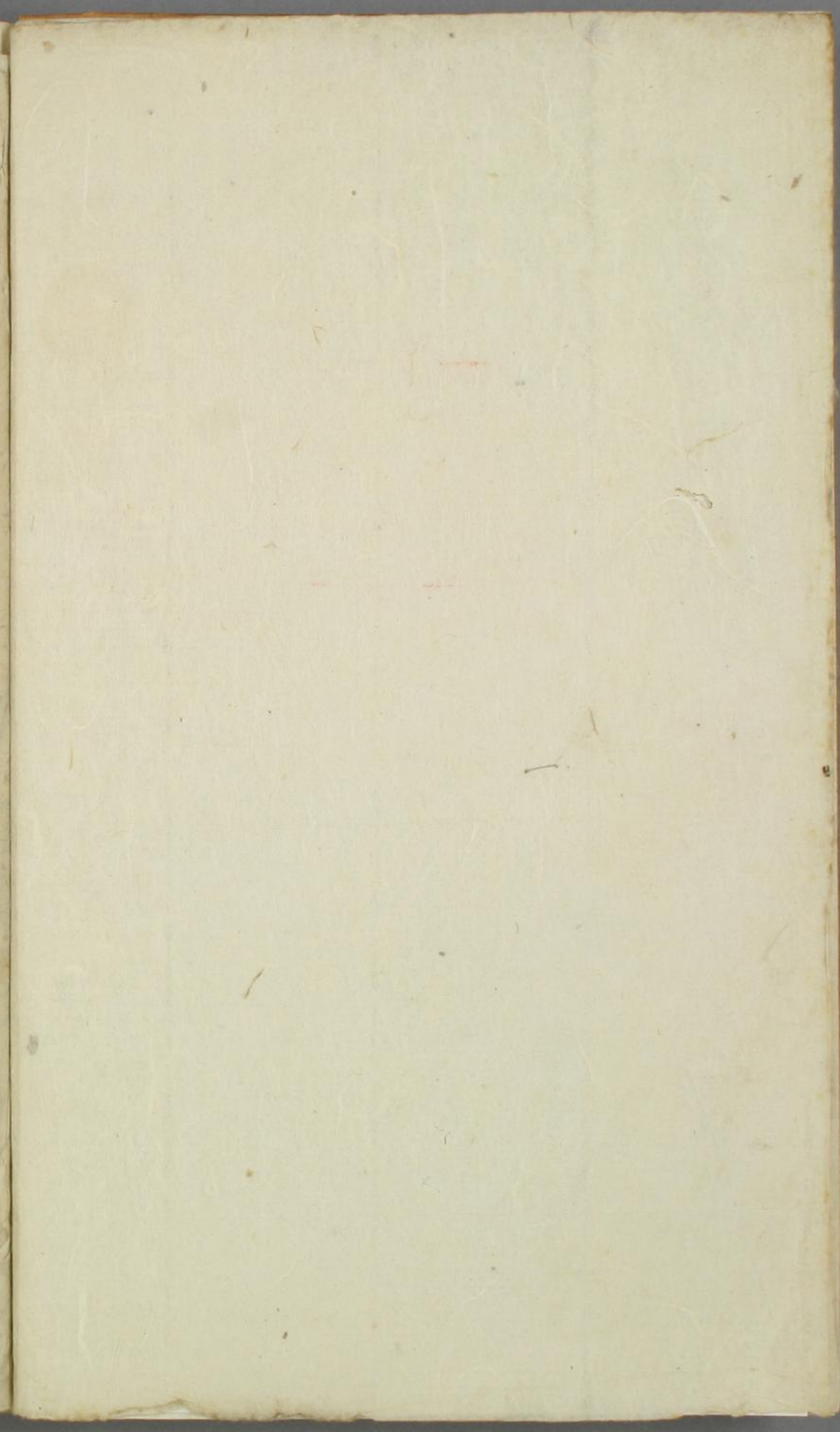


根岸中邑

現法

昭和廿四年二月廿日
高田早苗

Handwritten text in cursive script, likely a diary or journal entry. The text is written vertically on the left page of an open book. The characters are highly stylized and difficult to decipher precisely, but appear to include the characters 耶, 目, 羊, 記, 三, 木, 子, 飛, 揚, 年, 心, 道.



哥四品 一程ヲシニニ善哉ヲシニ
三ツトアリシニ四道ヲシニ

白河院 今天下朕方意如子子也人鴨川水

法皇 雙六ノ采山法師ノ
再幸

此ハ心筋ノ事ナリ

棍汰対膏 上ノ巻

棍汰対膏 棍字膏 禪淨也又雜也 正注 棍汰 淘汰也

此棍汰ハ雜穀或ハ由ガ夫ハ成造ラザルヲシ
棍末棍ニテツカスカミシニケトドスケルヲシ

櫛拵 フリコギニ 車雅云膏油ハシホトモカノ造トシ
サテモ既ニシテハハナリナク其ノ内ナ

漏出 少量名汁ノ取ニテ漏トシテケキト云
鹹鼓ハシテ 浮名内ニテ守御ニテ鼓其末調和者也 釋名ナリ

イナセ

○^{シユモ}蘇門答刺 大熱國 大山 四百五十丈

○春秋之時如大陽山頂上環以テ人影ヲ見ズ月有

○^{三ノ}王間畏六キ 風アリ地震大霧多ク又^一種弊

○^{相傳}風^傳傳者^ノ故^ニ女子^ヲ産スル^トキ其^ノ鼻^ヲ壓^テ搾^シ

○平^ノ代^ナラシム^ルト^キ土人^陰暴^ニ敵^手克^クツ^キ其^ノ肉^ヲ

○胡^ノ樹^ヲ擦^シテ^之ヲ^吹ラ^フ午後^西客^道通^商セ^シヨリ

○此^ノ風^漸止^ムク

○^新風^書ヨリ

○^北風^漸止^ムク

○^考考^トシテ^ハ風^ノ漸^ニ止^ムク

○^中中^ノ風^漸止^ムク

○^北北^ノ風^漸止^ムク

○^北北^ノ風^漸止^ムク

○^北北^ノ風^漸止^ムク

○^北北^ノ風^漸止^ムク

○^北北^ノ風^漸止^ムク

陸^ノ水^集 瀟^湘 男^ノ女^ノノ^ノ風^ノ漸^ニ止^ムク

按カサシクハ心細密中ハ如ク行テ信毛セウハ
取中ニカサナレテ中ニ係成ル如ク
中ニ此中ノ神經ト云人ノ往來ル
津液ニカサナレテ信毛セウハ
物ヲ辨ス

頭有精明之府頭傾視深精神特奪矣
不素問脈要精微論

本草備要云人之記性皆自在腦中
向腦未滿老人腦漸空故皆健忘
腦又為腦光受其象而多之亦壽之而
割之而存之故云心之記正記於腦耳
難題首切ラレテ毛死又人ノ心ヲ記テ水

食の考を以て首が無かつた云々
此の考を以て心を得んが云々
身ノウキ智慧云々がし月を養

○氣管又氣道

天地の氣は鼻より肺藏へ受納し如く
是の氣は又氣管云々

○胃管 胃管の道は口より胃管に
至る道は下也云々

此の胃管は呼吸の道に
凡物を其中に氣を
フクを呼吸して
胃管は呼吸の道に
凡物を其中に氣を
フクを呼吸して

信陽太事先生講純春書堂信陽
本姓平手氏中務大輔政考五世孫信陽

未村高教字世美教齋武其母出八

本姓根出氏父學官直利子延宗八

考申十一月一日生元祐十一年大衛騎郎本村

氏以養子十九年永富丁亥少村高教嗣

為後十一年第世世子官大官之擢

元康元年西宮皇子官大官之擢

位六品下等以秋官不立

冬十一月一日於元平六年六月三

年德也氏記三上考武家源後廿七卷

武德編年卷九十三考

少村高教

正誤

訂考新推

天家

信陽

武

高教

大官

源後

武家

西宮

皇子

官大

○きつりつらねい丹波おるはまーのほろおるほろ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ

○あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ

○あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ

○あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ

○あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ

○あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ
あつらひの事さしよるの唯あつらひ

○震 震袋 いんげん 雨衣、敏達紀年十行事(後略)

この衣袋

○酸持水 平加賀 和名、新名、荒之目、出石名、洛神、和名集

除根、地方、たけ

紫草、たけ

○古堂筒 古堂

古堂

○Maki... 古堂

古堂

目録 頁 文字

○文

古堂

古堂

古堂

前 古堂

注

敵相子組ヲ正兵トシ横ニ合シテ奇兵トス然レ無形ニ非レ好トスル是
ヲ無形トシ正變メ奇トシ奇變テ正或テ敵ラシテ我カ奇正ヲ
見ル能ハザラシム

○夜軍

陣所ハ寄ラテ夜討ト云 又夜出ニ戰フテ夜軍ト云
城ハ寄ラテ夜込ト云

○其中夜討ト夜軍ハ少シ異ナリ夜討ト夜込ト大ニ差別シ

○上

○甲申シテ大ニ傷ク時ハ氣逆トシテ眩暈カモ此時ハ

○辰砂益元散善シ其方滑石六分丹州一分辰砂一分

右細末水ニテ服ス

○青葉様子見シハ泚ヲ被特或ハ鹽ヲ擦リ以テ又直シ

各シタル一モミユ

○陣射

○陣射ハ羽凡カヤツ飛ナリ

○鎗ハ長槍有ヨリハ長槍者中人鎗ヲ善クシテ乃ハ人長用ヒテ

○利ハ似徒鎗ニ寸穂ナシ

○大太刀トテテ戸内外カニ買尺柄ヲ付テカ持セシ

○長柄鎗船軍ニ利アリ

○木ニ寸共角ハ筋ニ握両面生牛皮ヲ張其中間綿ノ

蒲團ノ如キモラ下名道ノ是柄極品ニシテ口柄ナ

○橋

○林子平流海船急ニ矢制ニ何等ナクナリ長橋ニテ苦ヨリテ下
○空ヲ塞テ其穴ハ盾ヲ寸長守許ハ紙ヲ通シ苦方ハ引返シテ

荷駄を糧車

○荷駄は漢土にて輜重ト云々等なり車載スル牛馬等
 輜重ヲアリ都テハ荷駄ノ重ク格ナリ者ナシ漢土ニハ
 輜重ヲ軍中中央ニ置テ片筋ニ置カサレシ見風ニ荷
 駄ノ最後ニオクテ中意ヲ夫レトシテアリ
 △荷駄ノ平場ヲ押ス車ニ如テ其次斗馬ヲ用テ急難處
 ヲ押行クニ歩荷便利ナリ尤貴目積リモ頑定置ルニ歩
 荷米ナレハ斗内外雜具ナレハ六貴目限リトス馬強
 ニ米六斗弱ニ斗位雜具ナレハ廿貴目限ルニ牛ニ
 是準スル車運馬四駄掛載ニ牛七トハ正合ナリ

四ノ三推スル人食ノ且升ノ積リテハ
 一斗十人一日ノ食ナリ余ニ是ヲ推テ知ル

○陣中ニ金不便利銅鋼ヲ善トス是迄故中ニ鐵物
 フレテ破レ銅鋼ノ不損ナリ

○兵報ノ人一日糧米一斗 味噌五勺鹽二撮

○粮車何箇ノ兵糧切ト云テラ別ニ定ムルハ

二重取テキ為ス但其額ノ不似ハ各人各レナリ

糧車

陣中ニ返ラズニ業ノ大ク司ノ...

沈佳 沈ヲチニシテ...

石垣

橘寮自語難波云 御橋ありて通れらるるの者 過れらるる事

下原

宝永四年 五月 浮城所芝居ノ書ケルモノニ 國所切手

橋

古過所ありし處ニ今スレバ 道ヲと云リ 過れらるる事

華

相國寺 京角倉市 祝光ノ切リ 過死 母 父 所 記 許リ

而

後名ニ 渡河ノ如ク 水ノ如ク 人ノ舟ニ 運ル 舟ノ如ク 水ノ如ク

飛

飛美心海ノ 征制テ 天河ノ如ク 住居ニ 代ニ 二 治ニ

此

唱守リ 松花ノ如ク 治ニ

初

初ニシテ 皇極ノ如ク 治ニ

此

口本ニ 此ニ 西ノ 皇

此

御入事 由テ 皇極ノ 衆人 都ニ 治ニ

此

三千石ノ 御入事 治ニ

此

治ニ

此

治ニ

此

治ニ

陣中ニ返ラズニ業ノ大ク司ノ...

石垣

石垣ノ下ニ...

下

下ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

擧

擧ノ...

此ノ...

○君の御 韓の高物と重者人君の御 高物と失之於
田成晋公失之六卿

人皆養子望聰明我彼聰明誤一生惟頼孩子
思之且其意無貴無難列之卿

東坡居士

○此の信云ききくはなす名のれりか
こゝを信くはなすはなすはなす

○こゝを信くはなすはなすはなす

○こゝを信くはなすはなすはなす

○こゝを信くはなすはなすはなす

○こゝを信くはなすはなすはなす

○夢現 言ま成章云わ料云んまなり

○重然成章云儲子にかなる可なり此之し真字たハロと云

○こゝを信くはなすはなすはなす

許者ヨロト云

浦山

浦山

○散木無用也

○こゝを信くはなすはなすはなす

○こゝを信くはなすはなすはなす

○こゝを信くはなすはなすはなす

○ 奇 ~~~~~
~~~~~

○ 傳 ~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

○ 舟 ~~~~~
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

○ 大巧 ~~~~~  
~~~~~

○ 山 ~~~~~
~~~~~

○ 何 ~~~~~  
~~~~~

○ 淺 ~~~~~
~~~~~



























京の厚の故に云々

流るるもわらわらふもあはれん

明末の末院妓林秋香

心くしきまゝに

昔日幸甚身細後注流世

寫入丹青裡不流春風再

○普微色也

定書

椽推美

○子面茶戌茶之土捲頭巾

時猶

蜜祖

執齋聖人御文中 法拔重

未代

阿弥陀佛

念佛

一向

南無

佛

歸命

信心獲得 願子之 送而元阿院佛

正定聚不退

涅槃

五濁惡世

選擇中願

不可稱不可說不可思議

一生造惡

三世業障

而元所法一佛六字心一切眾生報云

御恩報盡

往生スル



善導云而死ト云歸命又發願迴向義ハ阿彌ト云  
ハ其行トイヘリ而死ト云テ字ハ諸難行ヲスレテ  
ヒテクハ一向ハ向フアミツククニ奉ル心ナリサテ  
阿彌陀佛ト高字心ハ一心ニ歸命ト云テ衆生  
シヤクモナクスルニカク阿彌陀佛向フ  
コトナリ  
○殊勝超世ノ願マ有難ク阿彌陀佛如來光明ヤ  
眞實ノ極樂往生。難行難修自力

夫人間浮生ナル相ヲク觀スルニ才雪カキモ世始中終  
幻ノ如クテ一期セサレテ多ク歳ノ身ヲツケテト云事ヲカス  
イテヤフ過ラスレ今ニ改リテ名カ白年形骸ヲモシキヤヤ  
人マヤ今自トモシラス明日ニシテオシキヤ人ナラズ未  
ヨリモシケレトイリサレ朝ハ紅顔リニ夕ハ白骨トナレ身  
ナリ既ニ元常風キタリスハハ見マツルテト忽ニトナレト  
永ク絶スレ紅顔空ク寂シテ桃李花トナレト  
キハ親族方屬集リ鄒也ニ使ミ其カヒルカラスワテモ  
アハナキナラ子バトテ野外ニオクリテ夜半ノ鐘トナレテ



又ハ、白骨ノミコトリ、膝下ニ申、ハカニサレ合  
ノ、ナキ、一、老ヤ、不、定、弁、カ、ヒ、シ、名、人、モ、ヤ、ク、後、生、  
フ、大、事、キ、心、ニ、カ、ケ、テ、阿、弥、陀、佛、ノ、深、ク、タ、ミ、マ、申、セ、  
テ、念、佛、マ、ス、ヘ、キ、モ、チ、リ、カ、ラ、シ、

カ五昭月十七段文  
奥、達如海

信濃千早美山村を去る、高田類も下中宮地部を、或、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、

心、











〇 昔の事なりしを  
 〇 今に記すは  
 〇 禮記聘別篇  
 〇 妻有刺  
 〇 婦人  
 〇 禮記聘別篇  
 〇 妻有刺  
 〇 婦人  
 〇 禮記聘別篇  
 〇 妻有刺  
 〇 婦人

〇 昔の事なりしを  
 〇 今に記すは  
 〇 禮記聘別篇  
 〇 妻有刺  
 〇 婦人  
 〇 禮記聘別篇  
 〇 妻有刺  
 〇 婦人  
 〇 禮記聘別篇  
 〇 妻有刺  
 〇 婦人



























○ 培うるまひさるる ○ 培くまひさるる ○ 培くまひさるる  
○ 培くまひさるる ○ 培くまひさるる ○ 培くまひさるる

橋志何下

大解院准内本之違例もて橋志何下

おまの肩子ヲ湯帽子とて雨シレリヤト云セシニ  
しり侍之ト云ナリカバ首女ノ湯衣ナレト云ナリ  
乱シ又科ニセシ招子カ湯帽子ト云

○ すま也 爾時湯衣古蹟ニ高寺ト云寺ノ由地  
字ニスルヤ上ヨリ云ク浮城地ト云浮城

和陽ノスナ丹ノリカハ地ト云浮城

○ 佛堂業光ノ市山云クハ三ノ名ヲ得ヤ得ヤ時アリ内縁アリ

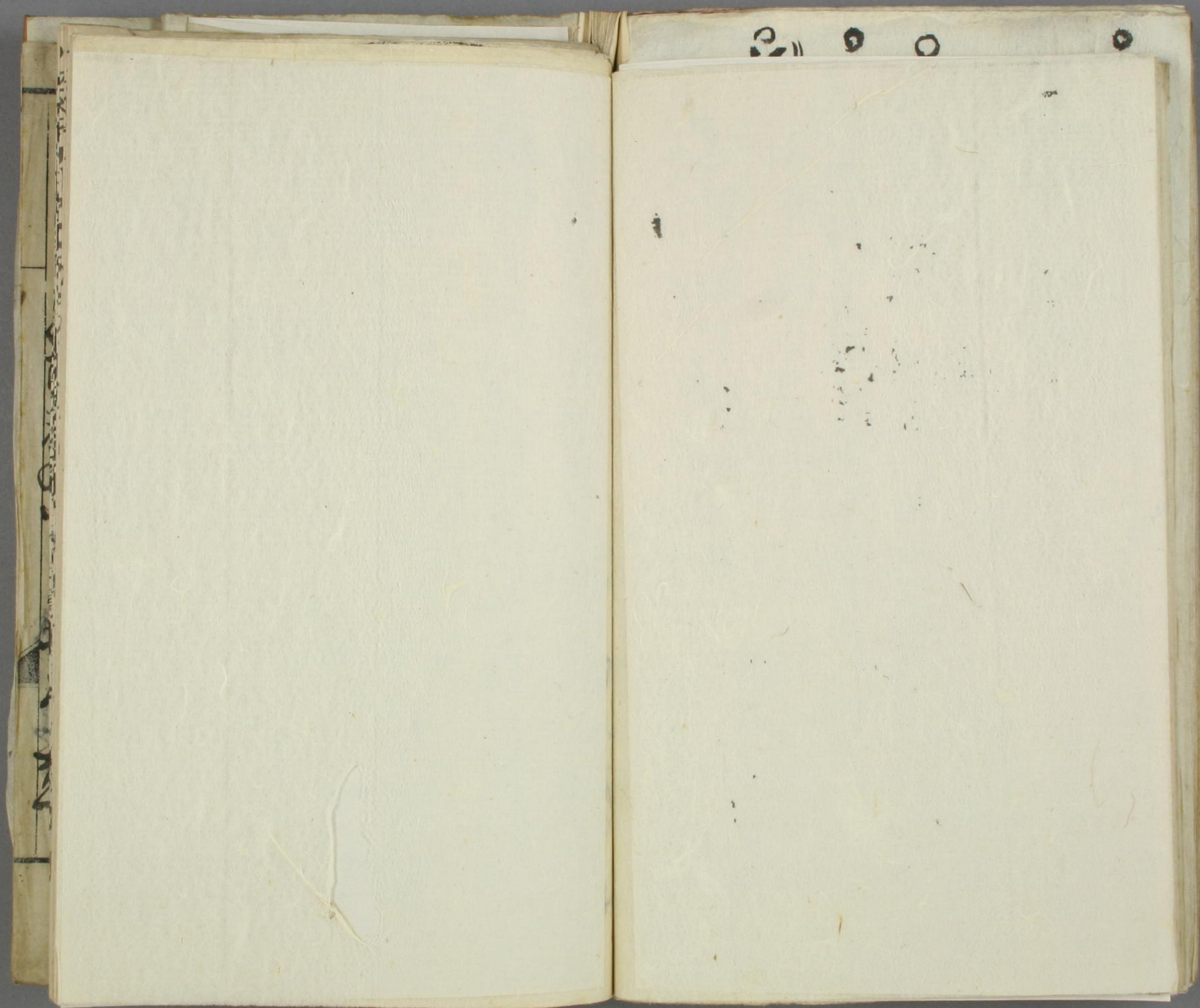














○今所お知麻と訪モノ吉ハ押扱スリ書院欄  
出文札ト云モノ

○天下ノ銘ヲ鏡カウラニホガリ者譲念立

○多リシヲ王和元年七月歳入京ト号事

○ラ政信より印ハヤミカシク鏡ニウノ突

○正字ヲ別ニセシカ掃ク事

○周眼抄備フ所取者信也ト云セリト云

○*Handwritten text in cursive script*

○*Handwritten text in cursive script*

○*Handwritten text in cursive script*

○*Handwritten text in cursive script*

○*Handwritten text in cursive script*

○*Handwritten text in cursive script*

○*Handwritten text in cursive script*

○*Handwritten text in cursive script*

○*Handwritten text in cursive script*



Handwritten text in a cursive script, likely a list or a series of entries.

Handwritten text, possibly a title or a specific entry, with some decorative flourishes.

Handwritten text, continuing the list or entries.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.

Handwritten text, possibly a name or a specific entry.







Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is dense and fills most of the page. It appears to be written in a historical Japanese style, possibly a form of kuzushiji or a specific dialect. The characters are highly stylized and connected. There are some larger characters that stand out, possibly indicating a name or a specific section. The overall appearance is that of a personal or official communication from a past era.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and fills most of the page. It appears to be written in a historical Japanese style, possibly a form of kuzushiji or a specific dialect. The characters are highly stylized and connected. There are some larger characters that stand out, possibly indicating a name or a specific section. The overall appearance is that of a personal or official communication from a past era.



調の長と各目下...  
調の長と各目下...  
調の長と各目下...

異部...  
異部...  
異部...

諸...  
諸...  
諸...

日...  
日...  
日...

字...  
字...  
字...



奴僕主姓 朱子云 今町家の氏を以て名を冠すなり  
自奉漢書 世に於て

○行はるべき事 此の事 行はるべき事 此の事 行はるべき事 此の事

○室 此の事 室 此の事 室 此の事 室 此の事

From the end of the last century in Japan

好利者逸出於道義之外其室顯而淺好名者

竊入於道義之中其室隱而深

百茅根潭 還初道全出

○甲子改元之村上帝御侍九年以降斗了也

○酒海 酒海 酒海 酒海 酒海 酒海 酒海 酒海

○守宮神 往者 守宮神 往者 守宮神 往者 守宮神 往者

又七神 此の事 又七神 此の事 又七神 此の事 又七神 此の事











隣女燈言 意近所者

隣女と申すは女と野とを合して云ふ事なり

○音器音器意の事なり

之字長康少字虎頭并悦隣女乃画女於壁當心釘之女患心痛告長康遂拔釘乃愈

太平記云日本太平興國三年三月下  
オコトシス明和清年中行幸御下  
後拍子籠所等より歌謡抄百十巻  
名画記下傳リテアリヤ

○社 社字ノリと列ム

如加茂素而並赤枝葉皆相對以日月星辰可及至秋葉落而無花  
山城國加茂社松尾社追前日吉社等祭礼用之  
又列記則善神  
地及植社樹故指神社林最馬社也

○鍛冶 音治云鍛段音治音夜打金鐵為器也俗假治訛也燒鐵銷鑄

○鍛師 天武記 鍛師作ハ語ニテ鍛師ト文字ニキテ云々

○辛 辛乃のれはもろくすのりとも今行末のむすめとて

○中 中乃のれはもろくすのりとも今行末のむすめとて

○治 治乃のれはもろくすのりとも今行末のむすめとて

○治乃のれはもろくすのりとも今行末のむすめとて

○治乃のれはもろくすのりとも今行末のむすめとて

○治乃のれはもろくすのりとも今行末のむすめとて

○治乃のれはもろくすのりとも今行末のむすめとて







猿猴月夜

○佛言此丘西子時空國處有五百獼猴遊行伺

百一尼梅賴樹下有井井有月影猴喜見已

破諸猴言月死處年為日共之令諸間

法我捉樹枝汝捉我尾展轉相連乃

可出之滿猴以首從繞欲至水猴

救弱之猿行隨升 止觀輔行云

此中... 月夜... 猿猴...

佛工

聖始見佛放蓮花年百濟王... 奉下紀... 佛二軀造...

○天白太子... 存謙所... 海母... 人執者...

○大將軍... 副將軍... 欽明所... 守新羅...

○社... 神... 福... 草...

古曾部... 姓... 社...



○採布 *Handwritten notes*

○此の糸を端に縫うは残のくらはさるゝ

○此の糸を *Handwritten notes*

○此の糸を *Handwritten notes*

○此の糸を *Handwritten notes*

○土馬 *Handwritten notes*

○此の糸を *Handwritten notes*

護略 *Handwritten notes*

注 龍行台 同運地

○後の春 *Handwritten notes*

○此の糸を *Handwritten notes*

○此の糸を *Handwritten notes*

○此の糸を *Handwritten notes*

○此の糸を *Handwritten notes*



苗字卜字

可出之三月内受指南

是利臣後尾新

○珠乾鶴

事物類聚 院身自焚 繪 陸 貫 日 身 人 命

受命於天 有瑞 心 善 美 自 定 守 貫 日 月

潤 得 酒 食 燈 花 得 錢 射 乾 鶴 噪 而 行

行人至 珠 蚌 集 而 自 事 喜 小 既 有 徵 大 亦

宜 然 已 尔 雅 精 用 蛸 長 跨 注 小 龜 龜 來 龜

長 脚 者 官 將 為 喜 子 又 陸 機 詩 疏 一 長

脚 并 列 河 内 人 謂 之 喜 母 此 虫 未 了 者 又

夜 當 有 親 客 也 王 有 喜 也

○候 亡 景 行 紀

又 經 行 紀 又 經 行 紀 又 經 行 紀

又 經 行 紀



○麓 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

○あ 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

○竹 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

○福 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

○無 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

○道 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

○人 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

○短 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事

竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事 竹屋の 事







神身受而敬再見國師云我亦師  
指示親得徑山衣偈乃指腋下衣袋  
為法更曰且得曰年裏梅元後下  
裏衣不離安舉到南方燈山衣法親  
傳授何用時仰彼君既而併能  
命常收法書室中所見神人

後言樹和精後法事  
壹替銀法唐言其事唐集  
固不持法也

○ 法華經疏卷之四  
○ 法華經疏卷之五  
○ 法華經疏卷之六  
○ 法華經疏卷之七  
○ 法華經疏卷之八  
○ 法華經疏卷之九  
○ 法華經疏卷之十



○を二の爲に、  
了まのこまの

事文いそ鳴砂山砂川南も無砂感隨合

又都良雷富士山山腰以下生少松服以上

無復生木自破成山其樅今春着止腹下

不得達上下白砂流下

拍手 神古きらる朝廷三拜元カ人等并後記

ト申候字白拍子移り此山に里部ラカ

奏家 拍子 踏指

酒子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

手 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

奏 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

秋 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

椿 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

奏 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

奏 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

奏 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

奏 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

奏 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子

奏 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子 拍子















以九月十二夜為明月之夜

○掃部

掃部連遠祖天惠人命信奉陪侍作常掃部  
仍掌三鋪設遂以為職名曰掃部守

○維新の書 海之古所流海に起

○子月 日ハ...

あはれ申すに月ハ...  
そのまはりの...  
なる御事

○身又雜記

△禮節 節ハ...  
不考...  
△貴人前ハ...  
ツカフ...  
無礼

△あまの...  
進退...  
△式退 人...  
待退...  
色解...  
信...  
あま...

△膳行...  
△待立...  
行...  
待...  
信...  
あま...

△同禮...  
△ツメ...  
△セメ...  
下...  
百...

△三豆...  
△細...  
△諸...  
各...  
信...

△...  
△...  
△...  
△...  
△...



配膳酌下ド後ヲタリ其名ヲ指ス時タ人糸道ニ礼ス存  
仰ル付テアキハ形ノ礼ヲシテモナリ

○今世ニテ居流ト人ノ格ノカニテ先祖トモ原真度ノ家臣ニ

カ此ノ事ト云フ自内ト云フモ自度ヨリハ後ウケテ流儀ト云フ

并子ト云フモ中ノ事有テモトク也ト云フモ子

水ノ島ト云フモ也ト云フモトク也ト云フモ子

憲廟美君徳松君仲以爲事ノ中ニハ向テテ田村ト云

白美トヘクハ心ヲ成ルル由ル事トテハ向テテ河ノヤサ

ノレヨリ也ト云フモ中ノ事有テモトク也ト云フモ子

○習禮 礼ヲシテカクシテ流儀ト云フ

○御行 御成事ト云フ

△大獲 大獲ト云フモ大獲ト云フモ大獲ト云フモ

△拍手 拍手ト云フモ拍手ト云フモ拍手ト云フモ

△婿ノ討トモ名ノ西ト云フモ亦ニテ人ノ事ト云フモ

△婿ノ討トモ名ノ西ト云フモ亦ニテ人ノ事ト云フモ

△婿ノ討トモ名ノ西ト云フモ亦ニテ人ノ事ト云フモ

△婿ノ討トモ名ノ西ト云フモ亦ニテ人ノ事ト云フモ

△婿ノ討トモ名ノ西ト云フモ亦ニテ人ノ事ト云フモ

△婿ノ討トモ名ノ西ト云フモ亦ニテ人ノ事ト云フモ







○男子十歳以上口をさへ

山澤の事やまの事七の事やまの事

○おの事やまの事やまの事やまの事

○子やまの事やまの事やまの事

おの事やまの事やまの事やまの事

○田事法師 遠くはるかに... 田事法師の事やまの事

○おの事やまの事

○信業又申業 真業アラズ

之代事内海高塩長尾事... 吾教業今大嘆



海地チテシメ奉ルニ奉皇位はシテ  
不和ニ我アリテ 江利ノ下ノ山王  
名実ニ流レテ 宮生ト云ハル  
テ何カニ胎部氏子ニ如ク  
法流リ云信等ナル五名ニ是ヲ  
名シ今主別居ト云フ 此等小知  
カ和國地ナリ云行カス

因ニ奉キ 児ト云ハル者云

○児 髪ヲセリシ女如ク下  
喝食 烏ラフホスルニシテ  
シテ元始ニテ

○汁科人 少クあり科官云

一 此カ形カクシテ神ト云フ 此等ト云フ

○重人 年歳常ニ中 奇異ト云フ 高貴人ト云フ

○陣借 軍所カク年古例字 此等ト云フ 人得

○甲乙人 重キ人ト云フ 弓取 盛リ

○大方殿 之ニ御座アリ云

○ソノケル 長クありまると云ハル 白布ニテ



○生員名北日譯字景 考し人譯と云ふやりに

○天宮宗 君名トテ 氏名成つたにふね侍下官名

古八間原の侍下官名 氏名成つたにふね侍下官名

○改第の系氏 上流千葉浦土肥 初又大度探原也

○私書堂 氏名私市衣云々 古八間原の侍下官名

○戴七黨 村山 秘 兎 指 候 西 節

△少書堂 氏名私市衣云々 古八間原の侍下官名

△カサシ色 黒色に黒き袴布の流し其色を黒き袴布と

○お由 氏名私市衣云々 古八間原の侍下官名

○二ツ 氏名私市衣云々 古八間原の侍下官名

○水綿 氏名私市衣云々 古八間原の侍下官名

○其母中 氏名私市衣云々 古八間原の侍下官名



五十年の経験 五十年の経験 五十年の経験

石を板を板 石を板を板 石を板を板

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

白を中 白を中 白を中

東ニモニ

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板

石を板を板



○口より出る女の口もさきさきと  
何れも守るべし  
○白衣 江戸の白衣は  
白衣ト云フ

○深月 中納言と云ふは  
深月ト云フ

○月結 其の  
又云月結ト云フ

○頭巾 頭巾  
出長 生澤時

○浅黄 浅黄  
浅黄ト云フ

○襦袢 襦袢  
襦袢ト云フ

○アサギ 二色アリ  
浅黄ト云フ

○スリ衣 スリ衣  
スリ衣ト云フ

○指衣 指衣  
指衣ト云フ

○白衣 江戸の白衣は  
白衣ト云フ

○深月 中納言と云ふは  
深月ト云フ

○月結 其の  
又云月結ト云フ

○頭巾 頭巾  
出長 生澤時

○浅黄 浅黄  
浅黄ト云フ

○襦袢 襦袢  
襦袢ト云フ

○アサギ 二色アリ  
浅黄ト云フ

○スリ衣 スリ衣  
スリ衣ト云フ

○指衣 指衣  
指衣ト云フ



○**ヒシ色** ヒシ色 **禁色** 禁色 **シテケレハスル**

浮下トテ江色ヲコシテ赤クナリテ禁色ニ  
コトナシクシテヒシ色ト云

○**シラガウ** シラガウ **上中下** 上中下

下海ナク  
横濱組云

○**奥布** 奥布 **錦** 錦 **シテケレハスル**

○**絹品** 絹品 **細絹** 細絹 **平絹** 平絹

○**毛織物** 毛織物 **毛織物** 毛織物

○**武術** 武術 **武術** 武術

○**改** 改 **改** 改

○**南** 南 **南** 南

○**代** 代 **代** 代

○**被** 被 **被** 被

○**調度掛** 調度掛 **調度掛** 調度掛

○**使節** 使節 **使節** 使節

○**布衣** 布衣 **布衣** 布衣

○**太刀** 太刀 **太刀** 太刀

ハウイト云ム指衣ナ  
ハ衣ヲ着シテハ大カラ指テ  
ハ裏ノキハハハハハハハ  
テ目極

自身大カラハキテ印付スル



クニニヤウジダニニ改非山同達  
○公人朝夕入

○新納言 奉引連者奉事以朝夕也  
○新納言 奉引連者奉事以朝夕也  
○新納言 奉引連者奉事以朝夕也

○押合使 押合使は領人我物に之を此を以て使役奉事  
○押合使 押合使は領人我物に之を此を以て使役奉事

○前駐 前駐先ら先院に  
○前駐 前駐先ら先院に

○之方 之方者、何者、此の  
○之方 之方者、何者、此の

○御御着 御御着は主君の御着なり  
○御御着 御御着は主君の御着なり

○御即位 御即位は皇室の御即位なり  
○御即位 御即位は皇室の御即位なり

○心 心は主君の内儀なり  
○心 心は主君の内儀なり

○御代 御代は周亞太大将軍の時  
○御代 御代は周亞太大将軍の時

○文位勲位 文位勲位は  
○文位勲位 文位勲位は

○一人 一人は天子の奉事なり  
○一人 一人は天子の奉事なり

○御代 御代は周亞太大将軍の時  
○御代 御代は周亞太大将軍の時

○心 心は主君の内儀なり  
○心 心は主君の内儀なり

○御御着 御御着は主君の御着なり  
○御御着 御御着は主君の御着なり

○御即位 御即位は皇室の御即位なり  
○御即位 御即位は皇室の御即位なり

○前駐 前駐先ら先院に  
○前駐 前駐先ら先院に

○之方 之方者、何者、此の  
○之方 之方者、何者、此の



一、少のしし天子御降一、のしし、乃子起出、

世子ノ大ロスヤシ  
カマノカカフシアリクシ

オヒタシ

○云所、乃信氏

陸奥

此、由流カ、乃信氏

幸徳軒ト云  
カラ、乃信

○被授、臣、具官、手、文、官、

中務省、侍、後、内、比、下、ト、云、

○布衣、始、

太、上、皇、上、皇、后、始、テ、御、賜、布、衣、ヲ、云、

○奉、禊、

玉、爲、云、袍、禊、ト、云、

○祓、

禊、禊、ノ、儀、凡、人、後、ト、以、禊、之、意、信、氏、

衣、膝、云、云、文、官、服、ト、云、

世、官、後、と、禊、ト、云、禊、ノ、意、云、

禊、ノ、意、云、禊、ノ、意、云、

禊、ノ、意、云、

禊、ノ、意、云、

禊、ノ、意、云、

禊、ノ、意、云、

禊、ノ、意、云、

禊、ノ、意、云、

禊、ノ、意、云、



○花一人  
文程より又由事人  
房親なる

蟻宮の塔  
と林

あふりー！  
お〜〜  
あふりー

あふりー  
あふりー  
あふりー

○素深の御幸と云はれ故に  
○スアウも袴ト云はれ  
○素深の御幸と云はれ故に  
○素深の御幸と云はれ故に

○素深の御幸と云はれ故に  
○素深の御幸と云はれ故に  
○素深の御幸と云はれ故に  
○素深の御幸と云はれ故に

○素深の御幸と云はれ故に  
○素深の御幸と云はれ故に  
○素深の御幸と云はれ故に  
○素深の御幸と云はれ故に

○肩衣  
下云者い事総務云  
下云者い事総務云



○天日三有之 其口前張大に心家の事也

○天日三有之 其口前張大に心家の事也

或る事は其の時既に其の事ありき  
或る事は其の時既に其の事ありき

○天日三有之 其口前張大に心家の事也

○天日三有之 其口前張大に心家の事也

○天日三有之 其口前張大に心家の事也

山日巨攀 屋 武の練磨

○天日三有之 其口前張大に心家の事也

困穴身要之落

相隨 夜半上口

○天日三有之 其口前張大に心家の事也



Handwritten text on the right edge of the right page, possibly a page number or marginal note.

法華傳新入賦書中 法華經一巻入徳

石上布留 智山辺神石上布留ありて

在法華經卷第六

其の意は... 法華の意は...

法華の意は... 法華の意は...

法華の意は...

應華... 尾摘末也尾上なる山の上

一... 尾のあたりに山の上なる山の上

瑞雲を... 瑞雲を...

智... 智...

可... 可...

我... 我...

の... の...

ち... ち...



抄并多れなり故に... 果は... 事  
こゝろあて...  
上は... 所... 所

○後五中... 固情... 事... 事...  
の... 事... 事... 事...

如拜吾前

喜地  
上天照大神神詔

舞  
舞  
舞  
舞

宮人

清古言  
里人  
濁古言

京畿

一國之常立神  
正語  
不... 事... 事...







於此是トイフスル處也  
字ハ切リテ辭ヲムカカレバモ如ク  
次トイフスル言ナリソラ切メテハカレバトイフスル言ナリ  
書ケルハイカト云ニ古語ハ汝ノ意ナリ

○祈禱 泥濘 閑遊 礼 安 頼 由 惠  
云 意 通 多 七 也 礼 安 如 是  
有 故 ト イ フ 通 フ ス 此 字 亦 常 ナ ル 也  
弟 由 音 引 リ ツ ン 後 故 意 通 フ 多 三 也

ナリノ意ニ通ニ新レリトイハル故ト云ニ通フ

爾 多クハ 許ルト訓ベシ文ヲヨリテカトヨニテヨクモ

○自爾 爾 崇 乃 即

○礼 為 為 直 其 禍 持 罷

為 欲 孰 啖 欲 卒 是 以 萬 事 亦 歎

ナリ大為也

○是以萬事亦歎



母知互後山レキモ 麻蘇淫毛知ナミタゴゴ...

所生所成 生有 成有 欲奪國 再

愛友故未耳 又彼...

皇國... 彼...

加都 又彼...

家... 閻浮提中有... 彼称孔子... 月无并...

のつ根...

天之美福漢書食貨志。我國...



母知互後山レキモ 麻蘇淫毛知ナニタラゴヒ

所生所成 生有 成有 欲奪國 再

愛友故未耳 右記中此ウの旨漢文ノ

皇國啓テハ能美中尚トの報 格ヨリニ皇名を常如ク  
此ウの旨漢文ノ 右記中此ウの旨漢文ノ

加都 カツハ此をシテガク又彼ラモスルガ如キヨリテ

家基内家外ノ間浮提中有表且國我遺ラニ聖序

化導人氏光澤無遠彼称孔子出業并彼称老子

月光并彼称顔回 後抽出

杜康酒製精ノ名傳人ノ 我武帝樂有テ何以消憂

杜氏周世始ラテ名日齊ノ 惟有杜康  
天之美福漢書食貨志。 我國兼儀狀作備而能而具

九命



後世有取酒之真國者遊蹤儀仗而繼昔酒  
○ 枕偏心也酒曰酒

○ 身後推金柱北計不如生前一樽酒白居易

○ 仗我有身後名不如即時一盞酒晉書張翰

酒遠杜氏頭兒不說

○ 平利休二條天皇陵石塔之稱云云

○ 深坊深帳五雜記云云 因窮靈產諱

体凡之記 閣林志が院院記系り

○ 首家邁ゴウマイ 卓哉 追驅 追驅ツツカ 吳城

○ 戰國ノ七雄立 霸 嫁蕩云宗系







松蘿道人  
作階  
修階  
人鮮生凡力  
下位  
子

習  
枯木花  
隨世

警  
勝  
勢  
息  
因

盤  
魏  
魏

明表了凡真行  
天壽相友

下  
長  
事

彭  
彭

下  
推

下  
解

下  
解

下



新又節志満 生年十七年相攻高き道三年  
志度官衛所が先登者にして相攻長一  
百人口三戸十室の集り

怪談全集 世に  
隆記 五新 記 蘭林 志  
乃山 乃山 乃山 乃山 乃山

農事全集 乃山 乃山 乃山 乃山 乃山  
乃山 乃山 乃山 乃山 乃山

乃山 乃山 乃山 乃山 乃山  
乃山 乃山 乃山 乃山 乃山

乃山 乃山 乃山 乃山 乃山  
乃山 乃山 乃山 乃山 乃山  
乃山 乃山 乃山 乃山 乃山  
乃山 乃山 乃山 乃山 乃山







Vertical handwritten text in cursive style, likely a letter or a record. The text is dense and fills most of the page.

Vertical handwritten text in cursive style, organized into columns. Includes characters like 貴主, 行, 極, 省, 輜, 白, 餅.

Vertical text on the left margin of the left page, possibly a page number or a reference.



又次... 改...

大樹... 御... 御...

千... 年... 月... 日...

仁... 皇... 惠... 仁

仁... 皇... 惠... 仁

大... 皇... 人...

皇... 皇... 人...

皇... 皇... 人...

山... 皇... 皇... 皇...

皇... 皇... 皇... 皇...

皇... 皇... 皇... 皇...

皇... 皇... 皇... 皇...

皇... 皇... 皇... 皇...



○とら木機木ニ  
カケル本也作ラニシテ  
其在是主即ミミテハ口ト云



越後前原即ノノ活其國ノノ  
ハタキ同クナリ  
又箱ノラと俗ニ云テ箱ヲ九ニ  
又ト云下信河原代ニテハナク  
度言ノレ收テカリナス故  
ナウ了ニ示目云

早霜  
遠地  
棉  
徳  
余

明石武衛  
松平忠兵衛督殿

肌  
肥瘠土地の

ヤセタリナ



吹火朱唇動添新玉厥斜暹者如裏  
面大似霧中花

降家更婦

吹火青唇動添新黑厥斜暹者  
烟裏面恰似鳩盤茶

二百十日 病花盛之 唯葉ヨリ 移為 唯葉

是ヲ乃 トリシテ 是ヲ乃 トリシテ 是ヲ乃 トリシテ  
之何而 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉  
口用テ 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉  
シカるんナリ 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉 唯葉

穂平 我ツ 花 雁 ニツ 唯  
竹ノ 口 女 子 たり 如シ



女子の... 日記... 五...

病コト 薙ニシ 多タリ 夫ハ 惟ト 甘カ 渚サ 女メ 田タ 粟ム 細コ 也ナ

綿ワタ 存ゾク 月ツキ 池イケ 子コ 笑ウツク 勢セキ 穠ノリ 細コ 蔓マ 草クサ

女メ 穠ノリ 子コ 形カタ 丸マル 子コ 皮ヒ 子コ 方カタ 引ヒキ 可カ 方カタ 也ナ

穠ノリ 收ウケ 種タネ 下シタ 之ノ 始ハジメ 終ハジメ 穠ノリ 下シタ 表ウラ 假カ 設セツ

穠ノリ 表ウラ 事コト 事コト 穠ノリ 表ウラ 事コト 事コト

種タネ 陽ヨウ 氣キ 以ヨリ 以ヨリ 早ハヤシ 刈カ 陰イン 也ナ ナリテ

刈カ 少シ 子コ 也ナ 日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ 日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ

表ウラ 也ナ 種タネ 之ノ 文モン 早ハヤシ 刈カ 海ウミ 而ニ 亦モ 也ナ 刈カ

日ヒ 方カタ 者モノ 十ジュウ 分ブン 也ナ 刈カ 待マツ 并ナラバ 上ウヘ 也ナ 日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ

夜ヨ 者モノ 也ナ 日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ 日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ 日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ

日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ 日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ 日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ 日ヒ 二ニ 日ニ 也ナ







Handwritten text on the right edge of the page, possibly a page number or title.

Handwritten text in the upper right section of the page, written in a cursive style.

Handwritten text in the lower right section of the page, continuing the cursive script.











○ 櫻江垢腐 京山公坊(司) 業  
○ 葉華 天(司) 業  
○ 老(司) 業

Handwritten notes and a red circular stamp at the bottom of the right page.

子 臨門 天際 天(司) 業  
天(司) 業 天(司) 業 天(司) 業  
天(司) 業 天(司) 業 天(司) 業

Handwritten notes at the bottom of the left page.











出陵

之戰不新其為 漢高祖也

漢高祖也 漢高祖也 漢高祖也

驍勇

絕倫

補遺其難 續如

今

臨亮出

孫子 漢高祖也

仙苑 漢高祖也

少子 漢高祖也

漢高祖也 漢高祖也

漢高祖也 漢高祖也

漢高祖也

漢高祖也 漢高祖也















寡勢 兵無選鋒 曰此

險阻

重地 又云 澤背 賊邑 寇者

沮澤

地 推行 不傳 之 說

存澤

海 下 地 險

險 險 險 險 險 險 險 險 險 險

險 險 險 險 險 險 險 險 險 險

險 險 險 險 險 險 險 險 險 險

險 險 險 險 險 險 險 險 險 險

險 險 險 險 險 險 險 險 險 險

險 險 險 險 險 險 險 險 險 險

險 險 險 險 險 險 險 險 險 險

險 險 險 險 險 險 險 險 險 險

險 險 險 險 險 險 險 險 險 險



孫子大心篇才二行必矣肉燭火必素具發必有時  
起必有自時有天居燥也日有月在箕壁翼軫  
也凡此四宿者風起之日也

自居易の注

天の生也 龍虎質ハ自ラ 皇ガ多ク 朝擇レテ 君王 倒リ

貴 雷 夫戰勝攻取而不修其功者

唐太宗帝一冬軍起不度二度三度方餘一自發教聖

又冬一夜忽着衣喪晚ナリ 追テ 性テ 斬大雪  
降トシテ 寒シ 諸君何トシ 喪シ 既ニ 帝ニ 去 朕 淫言

首殷之興也伊尹在夏周之興也呂尚在殷故明君  
賢將能以上智為輔者必成大功此兵之要三軍  
之所恃而動也 伊尹ハ 伊尹ノ 言ニ 升ハ 大ニ 望ニ 志

殷湯王天下ヲ取シ 伊尹 夏桀ヲ 許居國者

周武王天下ヲ取リ 太公望 殷紂王ヲ 討テ 還シテ 同者トシテ 故ナリ







亞父范增

楚項羽謀臣之漢高祖臣陣平

陣平

陣平

似事

得子也

美

吾

項

Handwritten notes in vertical columns on the left page, including the name 'Van Zee' and other illegible characters.



Handwritten text in cursive script (草書) on a page with vertical lines. The text is written from right to left, starting with a large character '上' (top) and ending with '下' (bottom). The characters are highly stylized and interconnected, typical of cursive calligraphy. The page is numbered '10' at the top right. The left page is blank.



